

Libra | on

vol.24

りぶらいおん

<http://www.libra-sc.jp>

特集：① 岡崎アート&ジャズ
② シネマ・ド・りぶら



- 市民活動団体紹介
「おかざきニュース」
- 近隣のお店紹介
「松本なかみせ亭」
- 私の一冊 vol.18
- りぶら生涯学習情報
- りぶら中央図書館情報

● りぶらサポーター紹介 戸松 恵美



図書館交流プラザ（愛称:Libra）は、「図書館」「活動支援」「文化創造」「交流」の4つの機能で構成されています。りぶらサポータークラブ(LSC)は、Libraの施設活用をサポートする活動をしています。



岡崎の街を
散策しながら
現代美術とジャズを
楽しもう！

11月1日から12月2日まで開催される「岡崎 ART&JAZZ 2012」について、文化総務課副課長の小野鋼二さんと「オフィス・マッチング・モウル」の内藤美和さんにお話を伺いました。

岡崎市の中心市街地を、アートとジャズで埋め尽くそうというこのイベント、主催するのは「あいちトリエンナーレ地域展開事業実行委員会」という、長〜い名前の組織と岡崎市です。

そもそも「トリエンナーレ」ってなんでしょう。皆さんは知っていますか？ この言葉、もともとは「三年に一度」という意味のイタリア語なんですが、アートの世界では「三年に一度の展覧会」という意味で使われているんです。そして「あいちトリエンナーレ」とは、文字通り愛知県が主催する、現代美術を中心とした三年に一度の展覧会。2010年に初回が行われ、来年2013年には2回目の開催が決まっています。

そして、1回目と2回目をつなぐのが、県内の都市を舞台にした「地域展開事業」。昨年は豊橋市で行われ、今年は岡崎市が開催地に選ばれました。

JAZZ

まず、お話を伺ったのは文化総務課の小野さん。ジャズを愛する市民のボランティア団体とともに、これまでもさまざまなイベントを手がけてきました。

—ART & JAZZ ということですが、今回のプログラムにおけるジャズの位置づけは？

小野 テーマは「ジャズによるおもてなし」です。

—おもてなし？

小野 そうです。もともと岡崎では「ジャズストリート」を中心にしたイベントを開催してきました。「内田修ジャズコレクション」を核として、全国から著名なジャズ・ミュージシャンに集まっていただき、地元の演奏家とも交流をしながら、

岡崎 ART & JAZZ 2012

市民の皆さんを含む大勢の方々にジャズを楽しんでいただけてきたわけです。

その岡崎がトリエンナーレの地域会場になるのですから、ジャズでなにかできないかなと、ボランティア団体の皆さんと知恵を出し合ったのが今回の取り組みです。

—なるほど。それでおもてなしをしよう。

小野 トリエンナーレでは、街のあちこちにアートに出会うスポットができます。私たちは、そうした拠点を訪れ、移動する間にジャズを楽しんでいただこうと思っています。

—具体的にはどんなイメージなんですか？

小野 まずメイン会場である康生町への表玄関である名鉄の東岡崎駅で、訪れた人たちをジャズでお迎えます。会場をつなぐ商店街のBGMもジャズ一色にします。能楽堂では、ジャズと伝統芸能、「内田ジャズコレクション」のあるりぶらにもアート作品が展示され、りぶらホールで行われる「守屋純子ジャズオーケストラコンサート」で、徳川家康をテーマにしたオリジナル楽曲が披露される予定です。



—りぶらでの内容を詳しく教えてください？

小野 「内田修ジャズコレクション」に絡めて、ジャズアルバムジャケットアートで活躍した作家の作品を展示したり、ジャズを題材にしたマンガを使ったジャズ入門のためのレコードコンサートなども行います。

りぶらホールでは、ジャズオーケストラによる本格的なコンサートのほかに、ジャズボーカルを学ぶワークショップ付きのライブも予定しています。楽しみにしていて下さい。

—目からアート、耳からジャズというわけですね。楽しみにしています。ありがとうございました。ジャズについては「おもてなし」を受けるつもりで楽しみましょう！



ART

では、アートの方はどうなのでしょう？。お会いしたのは、アート・イベントのプランニング事務所「オフィス・マッチング・モール」の内藤さんです。ここは岡崎に拠点を構えつつ、2010年の「あいちトリエンナーレ」を県から引き受け、見事に成功させた、アートの世界では名の通った事務所です。

—今回はどんなことが計画されてるんですか？

内藤 康生町を中心に、シビコの6階や屋上、岡崎公園の櫓、岡崎市美術館、旧本多邸、りぶらなど、あちこちの会場で現代アートを展示します。いってみれば、まちなかで観る現代アートですね。パフォーマンスやワークショップもあるし、スタンプラリーもやりますよ。

—なんだか楽しそうですね。

内藤 最近は若い人を中心に、情報発信が上手で体験的なことが好きな傾向が強くなっています。物欲よりも知的好奇心が高くなってきたのかもかもしれません。文化度が上がっているなあと感じています。だから、現代アートにはあまり抵抗はないんじゃないかと思っています。きっと楽しんでもらえると思いますよ。

—岡崎で生まれて岡崎で育ったということですが、今回の取り組みで何か思うことはありますか？

内藤 そうですね、この20年でまちの様子はずいぶん変わったと思います。岡崎市でシビコといえば、かつては商業地域のシンボルでした。屋上はそのむかし遊園地だったのに、今では人の声が途絶えて久しいし……。こういう傾向は、全国的なもので、都市の中に空洞部分ができていますね。今回は、この空洞部分をアートで埋めたいと思っています。埋めるだけじゃなくて、もちろん人や時間をつなげていきたいですね。

—一人と時間をつなげる？

内藤 そうです。時間という点では、まず地域イベントの役割である「あいちトリエンナーレ」とつなぐという意味があります。それから、人では、会場を訪れる人はもちろん、作家さんと地域の皆さんもつなげていきたいですね。

—それってどういうことですか？

内藤 前のトリエンナーレのときに、名古屋の長者町を舞台に、いろんな取り組みをやりました。そのとき、作家さんたちが「長者町のここがおもしろい」と、地元の皆さんが気づいていなかったいろいろな魅力を見い出して、自分たちなりに表現してくれたんです。その結果として、地元の人たちが「自分たちの街っていいところなんだ」と、新たに認識したみたいなんです。こういうとき、外の人の視線や声って大事ななと思いました。

そして終わってからも、いろいろな自主的な活動が続いていて、いまも次のトリエンナーレまでの基地として機能しているんです。アートでまちが活気づいたんですね。だから岡崎もそうなるといいなと思っています。人と地域と時間をつなぐ、3年に一回のトリエンナーレの間を埋める基地となることを願っています。

—開催後も楽しみ、ということですね。

内藤 アートはこれまで、美術館で観るというイメージが強かったと思います。でも今回、それ以外の場所で観たり触れたりすることで、より身近に感じていただけたと思います。作家さんの選定は、岡崎市美術館の学芸員さんと一緒に、バランスを考えながら行いました。ただ観るだけじゃなくて、ワークショップもあります。とにかく気楽に現代アートに触れられる機会です。何度も足を運んで、それぞれに想いを巡らせていただきたいですね。アートなんですけどイベントです。とにかく楽しんでいただきたいと思っています。



りぶらサポータークラブ 事業紹介

【シネマ・ド・りぶら】は、映画の上映を通して、図書館資料と Libra の活用を促進する事業です。図書館の映像ソフトで、ホールなどで無料上映が可能な作品を選んで上映しています。

シネマ・ド・りぶら Q & A

Q：どんな人がどのようにやっていますか？

A：りぶらサポータークラブの映画好きな会員が企画・運営して、主催の図書館との協働で、映画の上映会と上映作品に関する図書資料の案内をしています。上映会の終了後に活動コーナーで打合せをしています。りぶらサポータークラブの会員でなくても、この上映会を楽しみにしてくださる方なら大歓迎ですので、どうぞご参加ください。

Q：作品の選択は誰がどのようにやっていますか？

A：上映作品は、事前に会員が候補作品を観たうえで決めています。図書館にある DVD の中から、ホールで無料上映が可能な作品と予算内でレンタルできる作品の中から選んでいます。

Q：上映可能作品はどのくらいあるんですか？

A：図書館にある洋画のタイトルは 1,000 点くらいありますが、無料で上映できる作品は 180 タイトル。

邦画は 500 点から 50 タイトルくらいです。上映可能かどうかは、DVD の提供側の指定になっています。

Q：180 点もあればいろんな映画が観られますね？

A：そうですね。でも、皆さんに共通して面白いとか、スクリーンで観たいと思える映画は、案外少ないんです。そこで、こういうホールで上映ができる DVD を貸し出す会社があります。りぶらサポータークラブで予算をたて、年に 2 作品くらいはレンタルを利用しています。そこで利用できる作品にも条件がいろいろあるので、皆さんのニーズと条件を照らし合わせて上映作品を決めています。

Q：上映会を開催するまでにどのようなプロセスがありますか？

A：1 年前にホールの予約をします。そして、年間の予算に合わせ上映作品の選定をします。毎回の上映会に合わせて「コラ

シネマ・ド・りぶら

ム・ド・シネマ」の編集をして、上映会の一週間前に図書館のポピュラーライブラリーで、上映作品の関連図書の展示をしています。



Q：「コラム・ド・シネマ」はどのように作られているのですか？

A：コラムは、現在会員が事前に映画を観て書いていますが、皆さんからの投稿があれば、どんどん掲載していきたいと思っています。そのときに上映する映画に限らず、こんな映画を観たよとか、映画にまつわる思い出とか、何でも結構ですので原稿をいただければと思います。活動コーナーのメールボックスに「シネマ・ド・りぶら」の引き出しがありますので、そこに置いておいていただければと思います。

関連資料は、事前に図書館の資料検索やアマゾンを活用して探しています。実際に展示の本を選ぶときには、目次や内容を確認しながら関連の本を探します。

Q：上映作品のリクエストはできますか？

A：無料で上映できる作品は限られています。そのリストの中から選ぶということしかできませんが、なるべく大勢の方に楽しんでいただける作品を選んでいきたいと思っています。

Q：今年の 6 月と 8 月にアンケートをとり、その結果を見ると、毎月の開催を望まれているようですが？

A：上映だけに限ればやれないことはないですが、サロンやコラムを楽しみにしてくださる方も多かったので、現状の会員だけでは無理ですね。それに、なるべく多くの方に楽しんでいただける映画を今の予算で上映しようと思うと、作品数は本当に限られています。現状のままだと、「ファンクラブ」などをつくって、会員の寄付を募って運営して行った方が、いろいろな映画を楽しめるのではないかと考えています。



Q：それは、有料上映ということですか？

A：有料にするとレンタル料がぐんと高くなります。あくまで無料の上映ということで、上映のための有志を募るということです。現状では、ほとんどのリクエストに応えられません。また、「名作映画同好会」や「ミニシアター系同好会」への関心も思った以上に多かったので、ファンクラブを通して、もう少し会員の交流も図れるような企画を考えていけたらと思っています。ただ、懐かしいという映画を観ていただくだけではなく、「映画を上映する」ということを通して、図書館資料の活用と来場

者の交流が進むような取り組みをしていきたいですね。

Q：今後、映画関係の講演会の予定などはありますか？

A：講演してくださる方など、現在リサーチ中です。あの監督の話を知りたいとか、こんな映画の話を知りたいということがあれば、ぜひお知らせ下さい。前回から、コラムと一緒に感想用紙を配付しています。市民活動センターのメールボックスに投稿して下さい。下記のメールアドレスでも受け付けています。
info@libra-sc.jp

シネマ・de・インタビュー

「シネマ・ド・リぶら」の上映会にお見えになる、小出元子さんにお話を伺いました。小出さんは大正7年（1918年）生まれの95才。鴨田町のご自宅に森崎と戸松がお邪魔しました。

—去年の『巴里祭』の上映会で「銀座で観たわ」という声を聞いて、この方はおいくつなのかと、失礼ながらお年を伺いました。参加者では最高齢なのはと、お話を伺うことになったのですが。

1933年の公開でしょ。銀座の映画館によく行ったのよ。『会議は踊る』『ガス燈』『凱旋門』『カサブランカ』、イングリット・バーグマンの映画が好きだったの。『風と共に去りぬ』は20代の頃に本を読んでいて、戦後に映画を観たわね。「リぶら」はバスで行けるから、映画会をととても楽しみにしているのよ。

—岡崎とのご縁は？

主人の仕事の関係で、1983年から岡崎に。生まれは東京の大田区なの。父が外務省勤務で、3才～5才までシンガポールに在住。その後東京に転居してすぐに関東大震災1923年（大正12年）に遭遇。目黒の競馬場へ逃げて、高輪御所に避難したのよ。東京の空襲も経験したわ。

立正学園高等女学校（現文教女子大）の師範科を卒業後、その教壇に立って教えていたの。

学生の頃に主人と知り合ったのだけれど、戦争があって、結婚したのは婚約してから10年後よ。

それから、主人の会社のブラジル支社の立ち上げで、移民船に乗ってブラジル（サンパウロ）に渡ったの。42日の船旅は貴重な体験になったわね。



—ブラジルでの生活が長かったんですね？

最初の5年間は本当に苦労したわ。朝鮮戦争が始まって、会社には放っておかれていたの。でも、ブラジルではいろいろなことに興味を持って生活していたのよ。もちろんポルトガル語の勉強もしていたし、この学生証で映画も半額で観られたの（と見せていただいた学生証は1966年のものでした）。だけど、映画館よりゴルフ場の方が安全で、ゴルフに通っていた方が多かったかしら。年に100日くらいも

通っていたわよ。おかげで、岡崎に来てからはシニアの大会に出ずっぱりだったわ（ベストスコアは59）。

どこにいても、何かしら興味を持つとすぐに手を出してしまうの。ポルセラナ（西洋陶磁器絵付け）も、その一つよ（と見せていただいたのは、居間に飾られた陶器の数々）。散歩中に知り合った人が、ポルセラナの教室を開いている方だったの。東京にいたときは、皇室の着物に関わっている上野の国立美術館の先生に刺繍も教えてもらったりしたのよ（帯の刺繍も見せていただきました）。

ブラジルで陽気で気さくな雰囲気的生活が長かったせいか、気取っている人とのつきあいは苦手。いまでも、テレビで観たことなんか、自分で調べて何でもやってみようと思うのよ。図書館の大活字本もほとんど読んでしまったわ。今やっているのはイタリア語会話の勉強。お金のかからない趣味よ。こんな年になって、同年代の人が居ないのが寂しいけれど、若い人たちとこうしてお話できるのはとても楽しいわ。

とても気さくにお話しをしてくださった小出さん。毎回お目にかかれるのが楽しみになりました。



11月・12月 りぶら生涯学習ガイド

催しの予定は変更になることがあります。詳細は主催者へお問い合わせください。

日時	イベント名	料金	問合せ先
11月1日(木)～2月26日(火)	内田修ジャズコレクション展示室 オープン4周年記念事業	無料	図書館交流プラザ 23-3100
11月3・10・17・24日 (土) 11:00～12:00	ジャズレコード・テープコンサート	無料	中央図書館 0564-23-3111
11月3・10日(土) 13:30～15:30	Libra あかりワークショップ みんなでつくろう!雪ダンゴ	無料	図書館交流プラザ 23-3100
11月4日(日) 14:00～16:00	ワールドレクチャー(インドネシア)	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
11月5・12・19日(月) 14:00～16:00	ことばの教室(スペイン語)	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
11月6・13・20・27日 (火) 全4回 10:00～12:00	新米ママの料理教室II	2,400円 (4回分)	NPO 法人食育推進ネットワーク 58-8069
11月8日(木) ① 9:10 ② 11:10	心の健康講座 9:10 心理学 11:10 カラーセラピー	各 2,000円	電話、Eメール (psy.ayurveda@kss.biglobe. ne.jp) で申込。 小霜 080-1591-1634
11月10日(土) 13:30～15:30	りぶらまつり準備会⑤& りぶらまつりボランティア説明会	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
11月10日(土) 17:00	みんなでつくろう!雪ダンゴ あかり点灯式	70人抽選	図書館交流プラザ 23-3100
11月11日(日) 9:30～	「秋の癒しワークショップ」 リフレクソロジートリートメント体 験会	1000円	メール ryoko-may14@docomo. ne.jp 箕浦 080-1551-1967
11月11・25日(日) 10:00～12:00	ワーク・ライフ・バランス講座 「誰でもできるお助けマン～ 介助実践編」	20人抽選 初めてのかた 優先	文化活動推進課 0564-23-6222
11月13・20日(火) 12月4・11日(火) 全4回 13:30～15:30	平成24年度図書館講座 「読み聞かせボランティア養成講座」	はがき申込 40名	中央図書館 0564-23-3111
11月15・29日(木) 12月6・20日(木) 11:30～(6日のみ13時)	ベビーマッサージ&ママヨガ 2か月～1歳の親子	5,000円 (4回分)	Chiho 090-8671-7779
11月17日(土) 10:30～18:00 11月18日(日) 10:00～17:00	りぶらまつり2012		りぶらサポータークラブ 23-3114
11月20日(火) 14:00～16:00	生涯学習はじめましてサロン	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
11月24日(土) 14:00～16:00	男女共同参画セミナー「仕事と子育て どっちも楽しく!!」	90人	文化活動推進課男女共同参画班 0564-23-6222



日 時	イベント名	料 金	問合せ先
11月25日(日) 14:00～16:00	カルチャーサロン(茶道)	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
11月27日(火) 10:00	高野雅夫講演会 「1000年先も続く社会を目指して」		Eメール(*ubuya117@hotmail.com)で申込。うぶやの会 税 所 090-3307-3187
12月2日(日) 10:00～12:00	パパと一緒に料理教室II クリスマス料理	8組抽選	文化活動推進課 23-6222
12月2日(日) 14:00～16:00	ワールドレクチャー(ベルギー)	無料	市民協働推進課 23-3148
12月2日(日) 13:30～15:30	りぶらまつり反省会	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月4・11・18日(火) 14:00～16:00	ことばの教室(韓国語)初心者向け	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
12月8・15・22日(土) 11:00～12:00	ジャズレコード・テープコンサート	無料	中央図書館 0564-23-3111
12月9・16・23日(日) 1月13・20・27日(日) 全6回10:00～12:00	男も家事ろう! ～男子家事能力開発講座～	男性(学生不可)1,000円 24人抽選	文化活動推進課 0564-23-3110
12月9日(日) 11:00～13:00	ワールドクッキング(中国料理)	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
12月15日(土) ①10:00～ ②11:00～ ③12:00～ ④14:00～	冬のコンサート	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月15日(土)・16日(日) 14:00～	Libra ミュージックフェスティバル	無料	図書館交流プラザ 23-3100
12月9日(日) 10:00～12:00	りぶら いきものみつけ隊	初回のみ 500円	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月16日(日) 14:00～16:00	カルチャーサロン(凧)	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
12月18日(火)	24年度後期「りぶら講座」①～⑬		りぶらサポータークラブ 23-3114
12月18日(火) 14:00～16:00	生涯学習シンクタンク	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月20日(木) ①10:00～ ②14:00～	シネマ・ド・りぶら上映会 『グレン・ミラー物語』	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月23日(日)	24年度後期「りぶら講座」⑭～⑱		りぶらサポータークラブ 23-3114





りぶら中央図書館情報

ご存知ですか？こんな図書館サービスあります

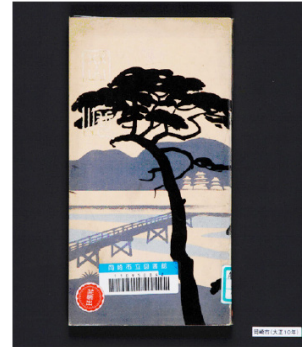
岡崎行政資料

1階、地域資料の岡崎行政資料のコーナーをご存じですか。
(棚番号 64、67)

岡崎市役所にも市政情報コーナー（西庁舎1階）があるので良く似た印象をうけますが、図書館の特徴は、長年に渡った行政資料の蓄積（歴史）があるという点です。例えば、『岡崎市』（デジタル資料もあり）では、大正時代、岡崎市制施行当時の様子を伺うことができます。また新しい市長が就任しましたが『市政要覧』では歴代の市長の顔ぶれも覗くことも可能です。

行政資料というと、固いイメージをもたれる方も多いと思いますが、みなさんの貴重な税金を、どのような使い方をしてどのような実績があったかを判断するひとつの材料となるものです。さらに歴史を重ねることにより、当時の様子を伺う貴重な資料ともなってきます。

貸出ができる資料もありますので気になる資料、一度手にとってみてはいかかでしょうか？



<http://www.library.okazaki.aichi.jp/tosho/da/archives/sasshi/>
岡崎市（大正10年）_A318_110950842/x/A318_110950842_
岡崎市（大正10年）_0002.jpg

レファレンス事例集

岡崎市立中央図書館でこれまでに受けた資料相談事例を紹介します。

岡崎といえば、繊維で栄えた土地。今回は紡績工場の産業遺産についての事例です。

質問	国道1号の乙川下流100mの所の堰ある。この堰は、官立紡績工場の動力を得る為に設けられた堰と聞いたが、この事柄がかかれた資料は。また、この堰が、当初は服部長七の考案した人造石で造られたものであるか否か？
回答	官立紡績工場は「官営愛知紡績所」乙川下流100mの所（大平町）の堰は「大平堰堤」、紡績工場取水のための堰は、取水口（丸山町字能頭）辺りにある「丸岡堰堤」のよう。 参考資料①、②に堰の記述あり。またそれ以外の資料として③～⑧を紹介。長七の考案した人造石か否かの記述は確認できず。
キーワード	官営愛知紡績、服部長七
参考資料	①『岡崎の乙川沿いの文化・自然・観光』A0293オ／大石収宏／著 1997年 ②『官営愛知紡績所の緊急調査報告 第一次』（複製）A586カ／天野武弘／著 1989年 ③『愛知紡績所沿革』A 586ア／岡本幸雄・今津健治／著 1981年 ④『官営愛知紡績所の緊急調査報告 第二次』A586カ／天野武弘／著 1990年 ⑤『愛知県の近代化遺産』A 602ア／2005年 ⑥『新編岡崎市史 4 近代』A0233シ／1991年 ⑦『服部長七と人造石』（複製）AP510／1985年 ⑧『服部長七物語』A 0289イ [服部長七] / 浅井久夫 / 著 2011年

りぶら映像アーカイブス

岡崎市立中央図書館 2階の視聴覚ブースでは、ビデオや DVD などの館内資料だけでなく、年代別にアーカイブス化された岡崎に関する貴重なニュース・番組映像を視聴することができます。懐かしい映像のなかに、ひょっとして、あなたも登場しているかも？！

紹介映像⑨

「映像コーナー～しめ縄づくり～」

NHK ニュース

放送年：平成 18 年 (2006 年)



新年の年神様を迎えるしめ縄。映像では、しめ縄づくりの盛んな大門地区で、11月にしめ縄づくりの最盛期を迎えている様子が紹介されています。

しめ縄づくりで重要な作業は、7月下旬の青田刈りと稲の乾燥ですが、大門地区では、むかしから矢作川の砂州を使ってこの乾燥作業が行われてきました。

現在では乾燥機を使っていますが、使用後に燃やしても公害を発生しない材料であることから、大門のしめ縄づくりは伝統産業として高く評価されています。

「愛知県ビデオコンテンツ」のサイトでも、大門のしめ縄が紹介されています。こちらをご覧ください。

<http://www.manabi.pref.aichi.jp/general/10051947/0/index.html>

私の一冊 vol.18

『冥途・旅順入城式』



浅井智香子 (あさい ちかこ)

りぶら総合案内と内田修ジャズコレクション展示室にて、受付案内を担当しています。お客様に的確な情報をお届けするため、毎日変わる館内の状況にアンテナを張り巡らせるように努めています。

怪談に、取り憑かれている。人情話もラブストーリーも、読み終わればケロリと忘れてしまうが、怖い話だとそうはいかない。背後が気になる。暗闇を避けたくなる。怯えをひきずるところが楽しくて、「もっと恐ろしい思いがしたい！」とやめられない。

インターネットを開けば、民間伝承

から都市伝説まで、古今東西の怪談を楽しめる時代にあって、私のお気に入りには明治から昭和初期にかけての文豪による恐怖譚である。この頃は怪談ブームだったらしく、いろんな作家の恐怖を綴る手腕を堪能できる。中でもお勧めしたいのが、内田百閒だ。

『冥途』は、夏目漱石の『夢十夜』に雰囲気の似た幻想短篇集である。シュールな展開は、まさに悪夢。夢の中特有の焦燥感と、何か絶対に悪いことが起きそうな不穏な空気に満ちている。その10年後に発表された『旅順入城式』は、日常に突如として顔をのぞかせる恐怖を描いた作品集。『冥途』が物の怪の登場する不思議ワールドであるのに対し、こちらは死や狂気への恐れがじわじわと精神にくる。

どちらにも共通するのは、少しとぼけた感じの描写だ。たとえば、『短夜』の出だしは、「私は狐のぼける所を見ようと思つて、うちを出た」。毎度「見ようと思つたんかい！」と突っ込まずにはいら



内田百閒：著 岩波文庫

れない。かといって油断していると、「両眼を鶏のする様に、下の脛からぱたりと閉じた」(『波止場』)のように、ふとした光景が奇妙に歪んでいて不安にさせられる。ありふれた状況の何かがどんどん狂っていつ、気持ちがいっぱい込まれる。

百閒の怪談は、怖さだけでいえば、いま流行りのまがまがしいホラーには負けるかもしれない。でも、怖さだけで終わらない味がある。何度も読み返しているが、一向に飽きない。そのせいで、時代がかつた口調にまで取り憑かれてしまうのには閉口するが。ほら、閉口なんて言葉、いまだき誰も使わない。平成生まれの仕事仲間に、また笑われてしまう。



市民活動団体紹介

「おかざきニュース」

「おかざきニュース」って？

毎月1回、日本語・英語・ポルトガル語・中国語で、発行されています。外国から来られた方々が、母国語で安心して読める岡崎の情報誌です。外国籍の市民の皆さんのためにとの願いを込めて発行しています。

内容は、市政だよりに掲載している、文化・美術・スポーツなどに関する市内での催し物や季節の行事、岡崎での生活の安心安全情報（地震避難・交通安全・リサイクルゴミなど）、無料日本語教室などの案内、休日救急医療機関案内などです。それから、不定期ですが、読者の方からの投稿記事や、各国での出来事を『ネパール日記』のような形で掲載しています。

紙面の構成は、一枚を半分に分けて左側に外国語、右側に日本語（漢字のルビ付き）の対訳を載せています。現在の発行部数は英語版 350 部、ポルトガル語版 450 部、中国語版 300 部の合計 1,100 部の発行です。

「おかざきニュース」誕生のきっかけは？

1991年の桜の時期、アメリカの友人が「この桜もきれいでいいけど、岡崎には他にも桜の名所があるでしょう？英語で書かれたタウン情報誌がないんだよね」とつぶやいた。そういえば町をみまわしてもそれらしきものはみつからない。そこで、「じゃあ私がつくってあげよう」と。



代表の山本純子さん

第1号の「おかざきニュース」はその年の7月1日発行。桜・アジサイ祭り・美術館案内・七夕祭りの英語版記事を、50部コピーして友人に渡しました。彼女の喜ぶ顔を見て、こんなに喜んでくれるならと思い、引き続き発行することにしました。第2号からは、

岡崎市国際交流協会に届け、シビコなどで、外国の方に直接手渡しで配布していました。記事の内容は、「もし自分が外国で生活をするとしたら、どういう情報が欲しいか？」「何に困っているかな？」ということを中心に考えて、書いています。読者の方から、予防接種の変更の情報が欲しいなどのリクエストがあったり、母国から岡崎に来る方に、「おかざきニュース」を読んでおくといいよと、インターネットで宣伝して下さったりしています。日本の読者の方は、高校生など、英語などの外国語を学習している高校



生などが、対訳の形になっている紙面が勉強しやすいと、手にとってくださっています。外国の方のためだけではなく、岡崎市民の読者の方のためにもなる「おかざきニュース」になってきていることが嬉しいですね。

記事の翻訳についてですが、現在の英訳は、国連で20年以上お仕事をされていた方をお願いしています。その方をお願いしてからは、英語圏の方から、大変読みやすくなったと好評をいただいています。ポルトガル版・中国語版についても、日系・中国人・日本人の方などの協力で翻訳しています。

来年の4月に500号発行

21年続いている「おかざきニュース」、今発行している11月号で、495号になります。来年の4月には、500号を迎えます。この記念の500号をどのようなものにするのか、現在思案中です。みなさん、来年の4月発行の500号をご期待ください！

「おかざきニュース」は、近郊国際交流協会・岡崎市教育委員会・市役所 1F 外国人窓口・市役所 2F 生活協働推進課国際班・ブラジル国際交流協会・中国人国際交流協会・おかざきフィリピーノコミュニティ (OFC)・本宿郵便局・市内高校・市内小中学校ほか・りぶら 2F 市民活動センター・りぶら 3F・シビコ (エスカレーター横)・シビコ B1F・街情報センター (本町) などや希望者に配布しています。

翻訳・印刷・発送などを支えているボランティアスタッフは、現在18名です。お手伝いいただけるボランティアスタッフ募集中です。関心のおありの方からの寄付も受け付けております。

「おかざきニュース」は、これからも外国籍の市民の皆さんがいきいきと生活するため、身近で役立つ情報提供をしていきたいと思えます。国籍・言語・文化や性などの違いを認め、尊重しあう多文化共生社会が岡崎の街で生まれ、たくさんの方がつながって、ステキな出会いのキッカケができればと思います。

【おかざきニュース】

代表：山本純子
T：0564-21-6180 F：23-3185
e-mail：belclara@m4.catvmics.ne.jp

発足20周年記念誌



一編集後記一

高校3年生の息子に「おかざきニュース」を見せたら、「これ（英語が）わかりやすくていいね、バックナンバーもみたくてからもらってきて」と言われました。バックナンバーはHPに載っている事を伝えると「いいね～」と喜んでいました。りぶら利用者のみなさん、一度お手にとって見てください。

りぶらサポーター紹介 vol.4

りぶらサポータークラブ事務局長 戸松恵美さん

りぶらサポータークラブの運営委員を、順次紹介しています。

第4回目は、サポータークラブ事務局長の戸松恵美さんです。代表の山田さんとともに、新しい図書館の構想段階から市民の立場でりぶらの活用方法を考え、りぶらを利用する方々をつなぎ、りぶらを支えるために活動をしています。

LSC 以前のボランティア活動は？

20年前から、自宅で私設図書館の「かばやま文庫」を毎週土曜日に開いています。「まちの縁側」として、出入り自由な空間があちこちにできればいいなという想いと、一人では荷が重い子育て(4人)の楽をしたいと思って始めました。玄関を開けておくだけの、何にもしない館長です。

対外的には「心の生涯学習講座」や「コーディネーター養成講座」を企画・運営したり、カブスカウトの副長や町内会の役員もしていました。図書館との関係は、旧図書館での「岡崎図書館を考える会」への参加から始まり、代表の山田さんと一緒に他市の図書館見学に行ったり、図書館まつりや「大人の調べ学習講座」「学業塾」「映画で学ぶ世界史講座」などを企画・運営しました。その流れで、「図書館交流プラザ運営協議会準備会」に参加し、LSCの立ち上げに関わりました。

LSC では主にどんな活動を？

りぶらと利用者をつなぐサポートができればと思っています。個人的には「シネマ・ド・りぶら」「図書館未来企画」「外国人のど自慢大会」「生涯学習シンクタンク」「図書清掃」など、りぶらに必要と思える事業を考え、実施していくことがサポートになると思っています。事務局としては、会議の資料作成、提出書類の作成、備品の管理、情報誌の編集やHPの更新・管理など、LSC活動のほとんど全てに関わっています。

今後 LSC で進めていきたい事は？

「りぶらを利用している人たちを横につなげて、みんなでりぶらを支えた

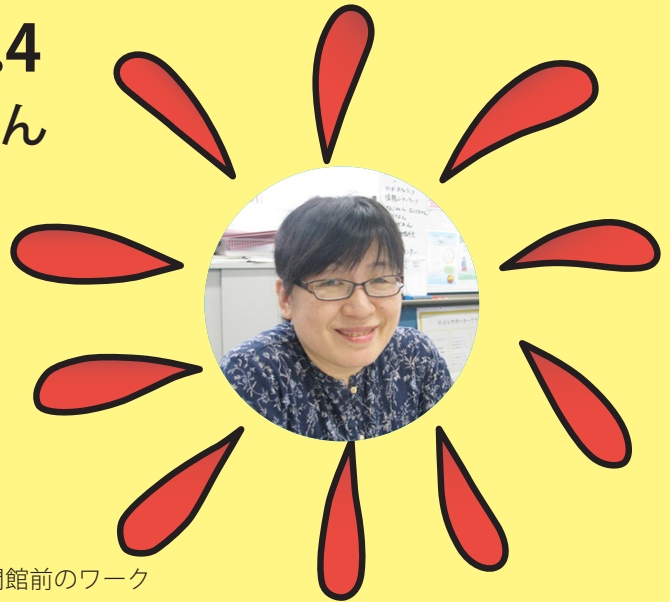
い」というのが、りぶら開館前のワークショップに参加していた市民の想いでした。それを“真に受けて”、LSCの立ち上げに関わり活動しています。

LSCは自分たちがやりたい事業をやっているわけではなく、利用者のニーズとりぶらの目的がマッチングしていると思う事をやっています。「自分のやりたいこと」をいったん脇に置いて、りぶらを支えるために何ができるのか、何が必要かということを考えられる人を増やしていきたいですね。みんなの思いが広がり、利用者・市民団体の方から「こんな事やりたいのだけど…」と声が出てきてほしいし、声をを出しやすいLSCにしていきたいと思っています。

ボランティアには限界もあるし、本来は職員の仕事でしょ、と思うところもありますが、時代の流れとして「市民協働」が必要とされています。だったら、理想的な「市民協働」のあるべき姿を模索して行った方が有意義だと思って活動しています。利用者である私たち自身が、りぶらを支えて盛り立てて、変えて行く流れを作るといような。LSCの活動は自由度が高く柔軟性があるので、みなさんにももっともっと利用してほしいですね。

ボランティア以外で関心のあることは？

毎週町内会で麻雀をやっています。でも、これも半分はボランティアですね。町内会の副総代をしているときに麻雀好きな母と同居することになって、町の公民館の活用とをつなげてお世話係をしています。本を読んだり映画を観ることもみんなりぶらにつながっているし、ボランティア以外というと、……？



Libra i on

プライベートデータ

【趣味・得意なこと】

読書・映画鑑賞、ダジャレ(寒い?)・パーティー料理・どこでも寝られる

【よく行くお店】

「ハリー」(美合高齢者センター前)
チーズケーキがおいしいですよ

【家族】

夫・長女・三女・母・長男結婚独立・次女結婚・現在5人家族+3匹の猫:チャチャ(♀)・きなこ(♂)・あんこ(♀)

【好きな食べ物】

うどんとお好み焼き(徳島県生まれ)

【行ってみたいところ】

エジンバラ・バース・ロンドン周辺の競馬場(好きな本の現場:イギリスのミステリーが好きかも)

【自慢できるところ】

いろいろやれているように見せるのは得意だけど、基本的に自信がないので、自慢できるところはない。でも、転んでもタダでは起きない。転んだ時、何もつかまないうで起きたことはない。済んだこと(過去)は全て忘れる(覚えていられない)ので、いつも前を見ている。宇宙は自分の中にあると思っている。(意味不明)

りぶら近辺のお店紹介

松本なかみせ亭 オープン

9月30日オープン！

りぶらから北に向かって歩くこと数分。昔ながらの街並みを残す松本町の一角に、その名も「松本なかみせ亭」がオープンしました。

古い空き家を、最小限の予算で改修して出来上がったスペースは、半分が小箱ショップ、残りのスペースには「地域の台所」と称したミニキッチン(11月下旬より利用可能)が設えられています。小箱ショップは、壁面に作りつけられた24個の棚に、それぞれ地域の方や作家、アーティストの作った作品が並べられています。一つの棚が一つのお店、展示スペースという形です。



松本町の歴史

松本町界隈はかつて花街として栄え、家康公の父である松平広忠の菩提寺である松應寺を中心に、今も尚松應寺横丁として昭和の風情が残る町並みを垣間見ることができます。しかしながら、時代の流れとともに空き家が増え、子どもたちの数も減り、かつてのような活気は失われてしまいました。一方で、神明宮のお祭りに発揮されるように、町内の人々の結束は強く、温かな人情は昔のままです。



松本町の未来

そんな中、子どもからお年寄りまでが安心して過ごせるような賑わいを取り戻そうと、あるプロジェクトが立ち上がりました。それが、「松本町活性化会議(通称:松應寺横丁にぎわいプロジェクト)」です。その始めの一步として、今年の秋に開催された「松應寺横丁にぎわい市」には、1,000人以上の人が集まり、大成功を収めました。その後、今年の春にも2度目のにぎわい市が開かれ、さらに多くの人で賑わいました。



そうして今回新たに始まったのが、この「松本なかみせ亭」です。戦後「仲見世商店街」と呼ばれていたことにちなんだ命名です。小箱ショップの商品は、手作りの布雑貨・革製品・陶器・アクセサリなど、地域の方の作品からプロの作品まで様々。小さなスペースですが、ゆっくりと流れる時間の中で、温かい手作りの品々を気軽に手にとって見ることができます。

9月30日のオープニングでは、和太鼓の演奏や採れたて野菜や駄菓子の販売もあり、賑やかなテープカットで、新しい町の顔に期待が高まりました。



松本なかみせ亭、なう

小箱ショップの出店関係者や、さらに噂を聞いて訪ねてくる方、そして何より地域の方が、なかみせ亭に立ち寄っては、誰かしらと楽しげにおしゃべりをしている様子が日々見受けられます。プロジェクトの立ち上げには、「岡崎まち育てセンター・りた」の後押しもありましたが、現在は、何より町の賑わいを願う地域の住民の方たちや、近隣に住むボランティアの支えで運営されています。

周囲のレトロな雰囲気にとってもよく馴染む、温かなお店です。買い物を楽しむ目的だけではなく、その温かさに触れるために訪ねてみる、そんな価値がある場所です。

11月24日(土)には、第3回目となる「松應寺横丁にぎわい市」が開催されます。この日はミニキッチンも完成し、小箱ショップとともに、楽しみな催しも数多く企画されています。ぜひ、足を運び、タイムスリップしたような温かな町の雰囲気に浸ってみてください。

「松本なかみせ亭」

- 住所 岡崎市松本町 42
- TEL 070-5440-7488
- 通常営業時間
毎週:金・土・日・月
13:00 ~ 17:00

